

先生なら、 どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていくか」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

「教頭、それはダメです！」
管理職の私にぶつけてくれた
異論のおかげで、
皆で最善策を話し合えた

公立・N高校 S先生

地域有数の進学校で進路指導部長を長く務め、現在は校長に。行政や企業と連携した探究学習の拡充、地域住民と協働した校内学習スペースの運営など、魅力ある学校づくりにエネルギーを傾けている



教頭として勤務した学校の1年生の探究学習のテーマは、地域創生でした。活動が調べ学習で終わらないよう、地域創生に取り組む現場に足を運び、問題の解決につながる行動を起こすことを生徒に勧めてほしいと先生方に伝えました。

移住をテーマとした男子生徒2人、女子生徒3人のグループが、先進的な取り組みを行う遠方の自治体とコンタクトを取りました。やり取りする中で、生徒たちの真剣な思いが伝わったのか、先方は生徒たちに、現場を見に来ることを提案してくれました。喜んだ生徒たちは、登校禁止となる高校入試の期間に、その自治体を訪問しようと考え、探究学習の旅の計画書を、保護者の了承を得た上で担任のA先生に提出しました。

生徒の主体性と綿密な計画に感心しつつ、判断に迷ったA先生が私に相談してきました。生徒に現場を訪ねることは勧めたけれども、2泊3日、片道600キロは遠い……。しかし、何事にも楽観的な私は言いました。「いいんじゃないの？」。

数日後、生徒の旅行届けを見た生徒指導担当のB先生が怪訝な表情で、「生徒だけで、しかも男女一緒に大丈夫ですか？」と私に話しかけてきました。「保護者が認めていますし、大丈夫でしょう」と私。B先生の表情が一変しました。「ダメですよ！ 生徒の安全を確保できていませんよね！」。B先生の言うことはもっともでした。私に思慮が欠けていました。

私はA先生に「B先生に叱られちゃった」と正直に言いました。ただ、生徒の計画を実現してあげたいという私の思いは変わりません。翌日、私はA先生を伴い、B先生に「あの話ですが……」と声をかけました。A先生は生徒たちの普段の様子、探究学習への取り組みの姿勢、そして計画書の内容を踏まえて担任としての思いをB先生に語り、B先生はA先生の言葉にじっと耳を傾けました。そして最後は、旅の途中、決まった時間に生徒がA先生に電話で状況を報告するという対応策を、B先生が私たちに提案してくれました。

あれから数年が経ち、相変わらず私たち教師は、簡単には答えが出せない問題に日々直面しています。教師間で意見が対立することもあります。しかし、異なる考えを持った教師同士だからこそ、粘り強く語り合うことで、よりよい答えにたどり着くことができることを、あの時、私は身をもって経験しました。年齢や立場にとらわれず、生徒のために本音で語り合える教師同士の関係が生徒を幸せにするのだと、私は信じています。

部下に叱責された経験は、S先生の管理職としてのあり方にどのような影響を与えたのか。A先生やB先生の思い、そして、学びの旅を経た生徒の探究学習の深化を紹介したウェブオリジナル記事を、ぜひご覧ください。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article31262/>